

令和5年度北区立西浮間小学校学校アンケート結果

北区立西浮間小学校長 小島 みつる

I 自己評価の結果と分析

「当てはまる」=4ポイント 「だいたい当てはまる」=3ポイント 「あまり当てはまらない」=2ポイント
 「当てはまらない」=1ポイント

数値は平均 3ポイント以上を肯定的評価、3.6ポイント以上を目標達成、3ポイント未満は課題有り と捉える。
 回答者数 学校教職員…40人 保護者…549人(対象数の80.1%) 児童…685人(全学年)

I	いじめの芽を見逃さない いじめに強い学校づくり	教員	児童	保護者
1	児童は、毎日の学校生活を楽しんでいる。	3.3	3.5	3.5
2	児童は、いじめはぜったいに許されないことだということをよくわかって、正しい行動をしている。	3.5	3.6	3.3
3	児童は、相手の気持ちを考えて、思いやりのある行動をしている。	3.0	3.5	3.2
4	学校は、子供のことを理解し、個に応じた指導をしている。	3.3	3.3	3.3
II	「自ら育つ子」の育成 自分を律する力の育成	教員	児童	保護者
5	児童は、学校教育目標が「自ら育つ子」だと知っていて、目指す姿を意識している。	3.1	3.1	3.2
6	学校は、子供が体験したり、自分で解決したりする授業を積極的に行っている。	3.2	3.4	3.4
7	児童は、学校や図書館などから本を借りるなどして、たくさんの本を読んだ。	2.9	3.1	2.5
8	児童は、学校や家庭で、時間を守って行動している。	3.0	3.4	3.1
9	児童は、身の回りの整理整頓をしている。	2.5	3.3	2.4
III	確かな学力の定着	教員	児童	保護者
10	児童は、自分からすすんで意欲的に学習に取り組んでいる。	3.0	3.4	3.2
11	児童は、自由学習や宿題などの家庭学習をきちんと行っている。	2.8	3.6	3.3
12	児童は、授業中の姿勢、話の聞き方、挨拶・返事、用具等、学習の約束を守っている。	2.8	3.4	
13	学校は、楽しく分かりやすい授業を行っている。	3.1	3.5	3.4
14	学校は、個々の子供に応じた学習指導(算数少人数指導を含む)を行っている。	3.2	3.5	3.3
15	児童は、学年相応の計算力や読解力・漢字力が身に付いてきている。	2.8	3.5	3.2
16	学校は、きたコンを活用した授業や家庭学習を積極的に実践した。	3.0	3.6	2.8
IV	豊かな心・正しい心を育む	教員	児童	保護者
17	児童は、学級学校内でよい人間関係が作れており友達と仲良く学習したり生活したりしている。	2.9	3.7	3.6
18	児童は、「西浮っ子の約束」や学校のきまりを守って生活している。	3.0	3.6	3.3
19	児童は、自分から挨拶をしたり、正しい言葉遣いを意識して話したりできている。	2.9	3.4	3.0
20	学校は、道徳の授業などを通して、児童の道徳性を高める指導をしている。	3.1	3.3	3.3
21	児童は、学級ががんばり目標を意識し、みんなと協力して達成できるように努力している。	3.1	3.5	
22	さくら草一人一鉢栽培の活動は、児童の地域や自然への愛着を深めている。	2.9	3.6	3.3
23	異学年フレンド班活動は、児童の思いやりの心やコミュニケーション能力を育てている。	3.2	3.2	3.4
24	学校は、多様な学校行事を効果的に行い、児童は意欲的に取り組んでいる。	3.3	3.6	3.6
V	健康で活力ある子の育成と安心安全な学校づくり	教員	児童	保護者
25	学校は、体育的な活動、保健や給食指導などを通して、子供の健康づくりを進めている。	3.2	3.4	3.4
26	学校は、避難訓練や各種安全教室を通して子供が安全に生活できるよう指導している。	3.4	3.7	3.5
27	学校は、学校施設や学習環境の安全、整理整頓や美化に努めている。	3.1	3.4	3.4
VI	保護者・地域連携	教員	児童	保護者
28	学校は、学校公開や授業参観、各行事などを通して、開かれた学校づくりを進めている。	3.4		3.6
29	学校は、子供の様子や学校の取り組みをわかりやすく適切に伝えている。	3.3		3.4

◇全体として、児童は素直で子供らしい自己肯定感をもち、友達と仲良く楽しく学校に来ている様子が覗える。

教員の自己評価が低いのは、単に実践しているかではなく、結果を出しているかを問うているので、児童・保護者よりも自己評価が低くなりがちである。

I 「いじめの芽を見逃さない いじめに強い学校づくり」について

○1 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、学校行事をはじめ通常の教育活動を実践することができて児童も心置きなく友達と仲良く接する活動が増えたこと、コロナ期に行ってきた丁寧な児童の様子を見取りを引続き充実させてきた指導の成果と言える。一方、教員が昨年度より低い評価となったのは、日常的な生活指導等に必要な全校体制を敷いて取り組んできた要因があったからと考えられる。

▲1 「学校が楽しい」に否定的評価だった児童数とその理由 1年：4人 2年：8人 3年：10人 4年：15人 5年：10人 6年：13人 合計：60人

理由 ①勉強が嫌：15人 ②友達等人間関係：26人 ③学校行くのが面倒くさい：16人 ④未記入：3人
これらの児童が少しでも減るように、児童理解を深め、保護者との連携強化を図って教育活動を工夫していく。

○2 「いじめの芽を見逃さない、見て見ぬふりを許さない」については、教員3.5、児童3.6と高評価となった。「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」という指導を全校朝会、学年指導、学級指導で折に触れ、継続的・計画的に行ってきた成果であると言える。また、教員全員のいじめの予兆を逃さない意識醸成に向け、校内研修や問題行動情報の共有・記録等に取り組んだことも成果の一因と言える。

▲3 「相手の気持ちを考えて、思いやりのある行動をしている」については、児童の評価3.5に比べ、教員の評価3.0、保護者の評価3.2が低くなっている。児童の内省力が十分育っていないことの現われとも言える。

II 『自ら育つ子』の育成 自分を律する力の育成』について

▲7 「読書習慣」について、外部ボランティア・教員・放送委員児童と様々な読み聞かせを行い、4月～12月の図書館の貸出冊数合計は児童一人平均34冊となっており、児童評価の3.1が適当であると考えられる。教員・保護者ともに2点台の低評価なのは、教員は授業中に読書の時間が十分確保できなかったこと、読書内容にまだ指導が必要なこと等から、保護者は家では児童が本を読む姿を見かけていないことに困るのではないかと思われる。

▲9 「身の回りの整理整頓」については、長期にわたって整理整頓の仕方を教えたり環境整備に努めたり、物が放置されない状態を維持するために指導を行ってきており、児童の全体的な実態からは、教員・保護者の2.5という低評価が妥当と言える。しかし、しっかりと整理整頓できている児童も少なくはないので、よい行動規範を広げていきたい。

III 「確かな学力の定着」について

○10～15 学力の定着に関わる質問については、児童・保護者とも概ね良好な肯定的回答となっている。今年度より、算数少人数担当教員が2人に増え、各少人数クラスの児童数がこれまでより少ない人数で実施できるようになったことも成果の一因である。

▲10～15 しかし、児童・保護者の結果に比べ教員の評価が低くなっており、特に11.12.15では大きな乖離が見られる。教員の日々の指導の反省を込めた結果であるので、今後も学校全体として指導改善・充実に努めていく。

○16 「きたコンの活用」については、児童は楽しく意欲的に学習に活用している様子がうかがえる。家庭学習の活用には、保護者の結果からまだ十分に活用できているとは言えない現状があるが、「ただ使えば良い」ではなく、教員の自己評価向上につながる、「真に学力向上・定着に資する活用」を開発・工夫改善・充実させていきたい。

IV 「豊かな心・正しい心を育む」について

○17 「学校では友達と仲良く学習したり生活したりしている」については、児童の評価3.7、保護者の評価3.6とともに肯定的評価が高くなっている。学習に達成感をもったり、人間関係が概ね良好である実感をもったりしている児童が多いと考えられる。つまりくことが時にあっても、すぐに解消されるよう学習面、生活面で適切な指導を重ねている現れと考える。一方、教員が昨年度より低い評価となったのは、日常的な生活指導等に全校体制を敷いて取り組んできた要因があったからと考えられる。

▲19 「挨拶・言葉遣い」については、教員、保護者の評価が低くなっている。会話のやりとりを続ける意識や相手意識をもてるよう授業だけでなく、場面や相手に応じた言葉遣いについて日常生活とも連動させて指導していく。

○22 「さくら草一人一鉢栽培活動」については、児童、保護者ともに肯定的回答が高くなっている。さくら草の栽培に関わる学習計画について、主体的な取組となるようカリキュラムの改善をした成果が表れたといえる。教員の評価が高まるよう、更に、日常的にさくら草のお世話に取り組む機会が増えるよう指導の工夫をしていく。

○24 「学校行事」については、三者ともに肯定的評価が高くなっている。経営方針として行事を大切にし、学校全体で主体的に取り組む姿勢を付けさせるための「育てる力」を意識し、行事ごとに「めあて」と「振り返り」の指導を確実に実施できた成果である。また家庭でも何に向けて頑張っているのか、学校からの発信や子供を通して伝わっていると考えられる。

V 「健康で活力ある子の育成と安心安全な学校づくり」について

○25 「体育・保健・食育」については、児童、保護者ともに3.4の評価となった。食育委員会を中心に動画を作成するなど、計画的に食育の指導を実践してきたこと、体力向上委員会を中心に本校児童の課題となる体育的領域に特化した体育的活動を新たな取組として行う実践したことなどが成果につながった。次年度以降も継続し、健康や体力向上の促進を図る。

○26・27 「安全指導」「環境整備・美化」については、教員、児童、保護者とも概ね高い肯定的回答となった。校舎の築年数が経ち、修理が増えてきている。安全な施設の管理に努め、児童の安心安全な生活を維持できるよう努めていく。定期的に校内環境整備日を設け、使いやすい環境、安全な環境を作り、教職員の環境美化への意識を醸成していく。

VI 「保護者・地域連携」について

○28 「開かれた学校づくり」については保護者の回答は3.6と肯定的評価が高くなっている。学校公開日を土曜日の他平日も年間で6日間設定している。また、各行事は昨年よりも来校人数の制限が緩やかになっていることも要因として考えられる。特に運動会はパブリックビューイングを設置したため、多くの方に見ていただけた。

▲29 「学校情報公開」については、保護者の要望として、各種通信のデジタル化の声が聞かれるようになったが、現段階では家庭のWi-Fi環境や情報量とスマホ画面での読みやすさ等を考慮して、採用していない。今後、保護者の要望と全体の状況、学校の効率性と周知の徹底を考慮しながらデジタル化実施に向けてよりよい方法を検討していく。

II 改善の方策

◎ 児童がこれからも高い自己肯定感を持ち、仲間と仲良く楽しく学校生活が送れるよう、全教職員が全児童の担任という意識をもって教育活動を進めていく。

1 【いじめの芽を見逃さない いじめに強い学校づくり】

- いじめ未然防止に向けての取組を今後も継続する。更に自分自身の言動を振り返ったり、相手意識をもたせる指導の工夫をしたり、想像力を育成すると共に日常の児童の様子を複数の目で見取り、いじめに強い学校づくりに努める。
- 不登校傾向1日目を見逃さず、組織的に適切な対応に当たる。養護・SCとの連携、個別対応、丁寧な聞き取り、迅速な保護者対応等生活指導案件について、全児童に対して全教職員で対応する意識と実践力をさらに高める。
- 教職員自ら人権感覚を磨き続け、学校教育全体を通じて人権意識を育成していく。
- 「学校が楽しい」に否定的評価の児童の理由に「面倒くさい」と答えた児童が3割弱いることが新たな課題である。子供たちの活力を支える生活基盤の課題を解決するには、教育や福祉機関との連携が必要である。関係機関との連携を図り、適切な判断や組織的対応力、実行力を付けていく。

2 【「自ら育つ子」の育成 自分を律する力の育成】

- 体験活動の他、自ら課題を見つけ、解決する方法や計画を考える学習を取り入れ、主体的・対話的で深い学びが生まれるような授業改善を進めていく。
- 望ましい生活習慣が定着するまで繰り返し指導していく。
- 学習に合わせた並行読書や関連読書等の取組を広げ、読書活動の充実を図る。

3 【確かな学力の定着】

- 学力の定着と学ぶ楽しさを両立させた授業を目指し、教材・教具の工夫や授業改善プランの活用を推し進める。
- 日々の授業、東京ベーシックドリルを活用した課題克服型学習や補習教室（学力フォローアップ教室）の取組により、基礎基本の着実な定着を図る。
- たくさんの形容詞・形容動詞・副詞等に意図的・計画的に触れさせ、「使える言葉」にしていく指導を工夫する。
- 主体的・対話的で深い学びを生み出すためのきたコンの効果的な活用と個別最適化を図った授業の展開を工夫していく。
- 家庭と連携して忘れ物をしないよう注意喚起させ、基礎的学力の定着の土台となる学習規律の確立を図っていく。

4 【豊かな心・正しい心を育む】

- さくら草の栽培に関わる学習計画について、さらに主体的な取組となるようカリキュラムの改善を図り、日常的にさくら草のお世話に取り組む機会が増えるよう指導の工夫をする。
- 会話のやりとりを続ける意識や相手意識をもてるよう授業だけでなく、場面や相手に応じた言葉遣いについて日常生活とも連動させて指導していく。

5 【その他】

- 避難訓練等では、より実際に近い場面を想定した設定となるようさらに改善を図り、危険から身を守るために、児童が自主判断し、自主避難できる力を付けることを目指す。
- 整理整頓について、児童が改善意識をもって取り組めるよう日常的な学級指導・清掃指導等を継続していく。また、保護者との連携を図って指導を行っていく。
- 各種通信のデジタル化については、保護者の要望と全体の状況、学校の効率性と周知の徹底を考慮しながらよりよい方法を検討していく。